

平成26年8月1日

浜田市議会議長 原 田 義 則 様

議員名 芦 谷 英 夫

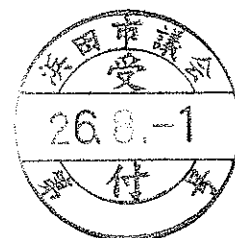


調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成26年7月30日（水）
- 2、研修内容 「協同労働」まちしごと勉強会
- 3、研 修 先 広島市安佐北区総合福祉センター
- 4、調査経費 浜田市（自家用車）⇒広島市安佐北区⇒浜田市
ガソリン代 3,041円
- 5、調査研究活動の概要
別紙のとおり



「協同労働」まちしごと勉強会

平成26年8月1日

○日 時 平成26年7月30日（水）午後1時～4時

○場 所 広島市安佐北区総合福祉センター

○概 要

■協同労働とは、高齢社会が進み就労や社会参加を望む意欲と能力のある高齢者は地域の大切な支え手でもあり、過疎高齢化、人口減少、核家族化、少子化などにより地域の支え合いや助け合いなど地域力が減退してきており、このような状況を見据え新たな考え方として打ち出された。

■雇う、雇われるの関係ではなく、働くみんなが経営者として、全員が納得いくまで経営方針を話し合い、自分たちの給料も決める。一般企業の就職から押し出された若者たちが数多く協同労働に従事し、これまで得られなかった労働意欲ややりがいなど将来の希望を手に行っているという事例も発表された。

■広島市では、安佐南区と安佐北区についてモデル事業として協同労働の実証を行うこととしており、実施後は成果と課題を検証し地域課題の解決につなげ、現在の雇用労働を補完する新しい働き方の一つとして普及、促進するとしており、今年度は勉強会の開催、人材の発掘と支援、事業化の支援などを行うとしている。

■報告で鳥取県若桜町のNPO法人ゆいまあるは、「なんとかしなくちゃ困っている人たちを助けよう！」と主婦5人により平成17年に誕生したもので、訪問介護、高齢者サロン、福祉有償運送事業、通所介護、交通空白地輸送、過疎地有償運送などを次々と展開しているとの報告があり、誰でも住み慣れた地域で安心して暮らしていける、ことを合言葉に活動を行っている。

○所 感

■浜田市でも高齢社会、人口減少、人間関係の希薄化、地域自治活動の停滞、若い人を中心とする雇用の不安定化、非婚化や晩婚化、助け合い支え合い文化の衰退、引きこもりの人の増加などの状況にあり、これらが連鎖し絡み合って人口減少、地域の衰退が深刻化している。

■一方、団塊の世代を中心とする働ける高齢者が増加し、地域社会への参加、地域への貢献、人として役割を果たす、居場所や出番をつくることの欲求が高まりその必要性も叫ばれており、ここは負の連鎖に陥ることなく、好循環の流れをつくり人の輪が広がる取り組み、地域力を展開する必要がある。

■高齢者や障がい者への支援、子育てや子どもの教育への支援、阻害された人への支援が求められ、協同労働のとしての市場があり、一方、地域においては集落維持、遊休農地活用、放置森林の活用、石見神楽など伝統芸能や文化の分野などで協同労働の事業が展開できる可能性を秘めている。

—以上—